

段階的な成長を促す発展的な取り組み

宮崎学園中学校
教諭 山下尚也、田牧晶

1 はじめに

宮崎学園中学校は2021年度がN I E N I E 実践指定校2年目にあたる。前年度を下地作りの1年目と位置付け、2021年度は発展的取り組みを行うこと、学年が上がるにつれて段階的な成長を促すことを目的にN I Eを実践した。ここでは主にその実践事例を取り上げたい。

2 前年度から継続した学校としての取り組み【1～3年生】

(1) 「N I Eコーナー」の設置

① 内容

- ・新聞を教室の前の「N I Eコーナー」に置き、新聞に親しむ環境を整備した。

② 取り組み方法

- ・各学級の係の生徒が輪番制で「N I Eコーナー」に新聞（宮崎日日新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞）を設置し、設置された新聞は生徒が自由に手に取って読めるものとした。
- ・前日の新聞は専用のラックに掛け、それ以前のものも一定期間保管をする。

(2) 「新聞スクラップ活動」の実施

① 内容

- ・新聞の中から気になる記事を切り抜かせてスクラップシートにまとめた。

② 取り組み方法

- 毎朝、係生徒が各学級に新聞を一部持って行く。（月ごとに新聞を指定）
- 担当者（学級ごとに毎日1～2名を設定）が新聞の中から気になる記事を選ぶ。
- スクラップシートに選んだ記事を貼り、記事を選んだ理由、記事の内容の要約、記事中の重要語、難語の意味、記事に対する感想や考え、記事の内容とSDG sの達成目標との関連（17の目標の中で、関連する項目のシールをスクラップシートに貼る）を記入した。

3 今年度の実践

(1) 課題探究【2、3年生】

① 内容

2、3年生は、前年度から取り組んでいる「新聞スクラップ活動」を発展させ、宮崎県の課題を報じる「高齢者の孤立死深刻」「宮崎国際音楽祭 26年 若い世代呼び込み課題」という2つの記事についてグループごとに解決策を考える取り組みを行った。

② 目的

前年度まで取り組んできたスクラップの取り組みを応用し、宮崎県の課題について当事者意識を持ち、社会的な見方・考え方を養わせる。また、1つの課題についてグループで深く考えることで、多面的・多角的な思考力・判断力を身に付けさせる。友達と協働しながら解決策を考え、発表に至る過程で表現力も磨かせる。

③ 取り組み方法

学級活動等の時間を活用し、取り組みの説明を行った。

- a. 各クラス4～5名1班のグループを作る。
- b. 各班、宮崎の課題となっている2記事のどちらかを選ぶ。
- c. 選んだ記事に対して、グループごとに独自の解決策を考える。
- d. 新聞記事から根拠やすでに取り組んでいる事例などを探し、その選んだ記事をもとに解決策を考える。
- e. 解決策を考える際は、SDG s と関連付け、「持続可能な宮崎」という視点で考える。



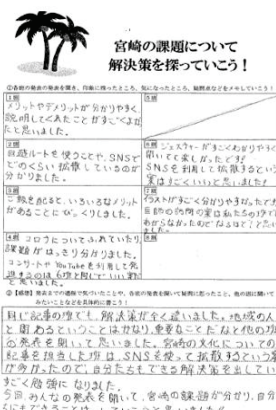
④ 取り組みの実際

その後、各学級で以下のように実践を行った。

- i b～eを模造紙にまとめていく。
- ii まとめた解決策を参観授業で発表する。
- iii 発表を聞く側は、各班の発表についてメモをとっていく。
- iv 発表を行う際は、iPadで模造紙の写真を撮り、後方に座っている生徒や保護者からも見やすくするために電子黒板に投影した。

⑤ 生徒の感想

- ・たくさん新聞を読んで、新聞には色々なことが書かれているということがわかりました。これから新聞を読むときは、SDG sのことを考えながら読みたいと思います。
- ・同じ記事でも、班によって解決策が全く違いました。今回のみんなの発表を聞いて、宮崎の課題が分かり、自分たちにもできる事はしていこうと思いました。
- ・NIEに取り組んでいるうちに、宮崎が抱えている問題がどれほど深刻なのか分かり、決して他人事ではないと思いました。
- ・高齢者の孤独死や文化への若者の興味が低いという課題について各班で考えることによって、こんなに解決策が見つかるのだなと思いました。



・何気ない記事でも、考えれば様々なことが見えてくることを改めて感じました。このNIEの取り組みの過程で、班員一人ひとりの意見を聞くことにより新しいアイデアなどが浮かび、新しい自分をつくる上で大事だと感じました。

- ・1つの記事を班のみんなで考える事によって、たくさんのことに気づくことができました。
- ・高齢者の孤独死に関する記事を見つけることは、すごく難しいことだと思っていましたが、記事をよく読んで、関係することをたくさん見つけていくと、記事探しがとてもしやすかったです。
- ・私たちにできる事は多くはないけれど、今回の授業を生かしてもっといろんな人にこの問題について考えてもらえるようにしたいです。
- ・短期間でどの班もたくさんの記事を読み込み、うまくまとめていて、とても分かりやすかったです。
- ・今回のNIEの取り組みを通して、宮崎県の課題を知ることができました。そして、たくさんの解決策を見つけることもできました。実現することにもまた課題があるかもしれませんが、難しい案は一つもなかったと思いました。これから私たちが宮崎を変えていく立場になるので、みんなで宮崎をよりよく変えていければいいなと思いました。
- ・私たちと同じ記事について考えている班でも、見方が少し違ってとてもおもしろい記事を選んでいたり、こういう解決策もあるんだなと思いました。

⑥ 成果

- ・限られた時間の中での活動、発表準備、そして参観授業での発表であったが、どのクラスもグループのメンバーと協力をしながら、取り組むことができていた。
- ・解決策においては教員側が予想していた以上の提案が出され、生徒の社会を見る力が付いているように感じた。

⑦ 課題

- ・多様な解決策が提案された一方で、似た解決策も複数出たため、さらに多面的・多角的に物事を見ることができるよう、新聞の読み方や、読む際のポイントなどの指導が必要である。
- ・今回の取り組みを各教科に汎用させる取り組みを充実させていきたい。

(2) 英語科の取り組み (JAPAN TIMES (英字新聞) を使った授業実践) 【3年生】

① 内容

英字新聞の記事内容をペアワークで意見交換する過程で理解する。記事の内容は、「『自分をありのまま受け入れて』 世界一長身の女性が語る」と「トンガへの国際支援が本格化」。

② 方法

- 記事を配布し、2分程度で内容を理解する。(分からない部分があってもよい)
- ペアを作って内容を確認し、意見交換を行う。「What's this article about? (この記事は何について書かれていますか)」「What's interesting / surprising / important? (記事の中でおもしろいこと、驚いたこと、重要だと思われることは何ですか)」「What's your opinion? (あなたの意見は何ですか)」という質問を互いに投げかける。
- iiのペアワークで話した内容について、クラス全体に英語で発表する。教員は発表された内容を黒板に記述しながらまとめていく。
- 生徒の発表内容に関するコメントや、記事の感想を教員が英語で話す。

(3) 国語科の取り組み 【3年生】

① 内容

・本校の3年生が国語の評論文「ブナの森で」（内山節）の発展学習としてNIEを取り入れた。授業を展開する中で、文中の肝要な箇所であるにも関わらず内容理解が表層的に留まっていると感じられた部分を、グループワークを通して学び合い、その過程で得られた学びをタブレット（iPad）を駆使して発表させた。

② 方法

i 2人一組になり、下記A～C（文中の肝要な箇所の引用）のいずれかに該当する記事を新聞記事の中から探し出し、タブレットで写真を撮る。

- A 「普遍的な森と人間の間接関係を守る確かな行動」
- B 「自然の「不平等」を受け入れ、そのことによってその地域特有の自然と人間の文化をつくり出しながら、同時に平等でもあるような社会の創造」
- C 「都市の文化と森とともに暮らす人々の文化が、お互いを補い合いながら連帯していくべきだと考える、新しい交流」

ii その記事で紹介されている取り組みにキャッチフレーズをつける。

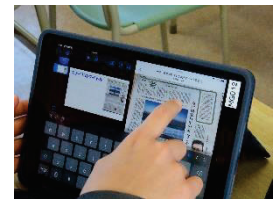
iii キャッチフレーズをKeynote（プレゼンテーションソフト）で作成する。

iv A～Cのどれに該当する記事か、新聞記事の概要説明、キャッチフレーズの発表及び説明を3分以内で行う。



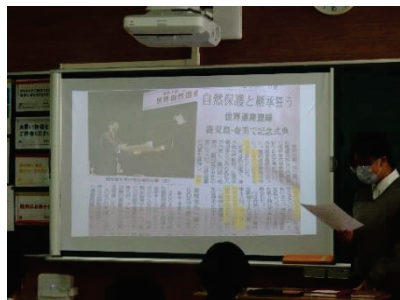
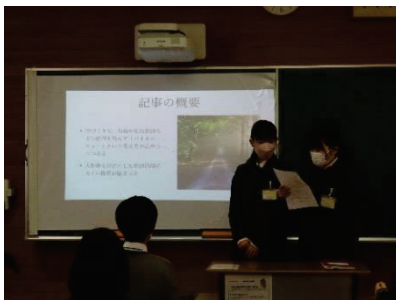
③ 目的

キャッチフレーズを考えることで、新聞記事の内容を端的且つ魅力的に他者に伝える力をつけるとともに、プレゼンテーションソフトを使うことで、視覚的に訴えるだけでなく、聴衆を惹きつける話し方にも気を配ることを目指した。



④ 取り組みの実際

見出しが記事の内容の要約になっていると気づき、新聞記事の小見出しを参考にキャッチフレーズを考える生徒が多かった。発表資料作成の過程で、記事中の語句の意味の理解が及んでいなかったり、記事には社会的課題が書いてあるのか解決策が書いてあるのかの読解ができていなかったり、という自分たちの課題にも気づくことができ、その解決のために更に新聞記事を検索するなど、一つの記事から枝葉を広げるように視野の広がりが見えたことは喜ばしかった。



4 今後の課題

前年度の取り組みを踏まえた発展的取り組みを目指したが、その過程で記事の内容を読解できていない生徒が想像以上に多いと気付いた。ワークシートを埋めたり、プレゼン資料を作り上げたりすると“わかっている”ように見えるが、記事の単語だけを拾って理解したつもりで作り上げてしまうことが露見した。今後は基本に立ち返り、記事から情報を正しく読み取るための方策が必要である。その際に国語で読解力、社会で思考・判断力をつけさせることを目指すなど、教科間で連携して取り組みを継続していきたい。理科や数学との連携も模索していき、新聞を読むことが生徒の世界を広げることに繋がると信じ、学校一丸となった実践を展開していきたい。